

第9回奈良県こども・子育て推進本部会議

議事概要（案）

こども・女性課

○日 時：令和7年11月21日（金）13：00～13：30

○場 所：県庁5階 第一応接室

○参集者：別紙のとおり

○冒頭の知事挨拶のみ公開

<知事挨拶>

- ・令和8年度のこども・子育て関連施策の総提案事業数は、令和7年度から22事業増えて150事業であった。今年度から本部員になった環境森林部、観光局、食農部からの提案の増加が要因の1つである。
- ・来年度の取組をこの場で共有し、来年度もきちんと施策に取り組んでいくため、皆さまの理解と協力をお願いしたい。

<こども・若者意見聴取実施の紹介>

畑澤こども・女性局長：

こども・女性課では、県立大学の学生約100名に対して、「男女共同参画社会について」と「こどもまんなか未来戦略について」の2つのテーマについて意見聴取を行った。

まず、今年度改定予定である男女共同参画計画について意見を反映するため、若者や女性が性別を起因として生きづらさを感じる点について、不利益を受けた具体的な内容を聴いた。学生からは、「親から進路についてアドバイスされたときに、職種によっては女性には無理と言われた」や、「アルバイト中に女性が高圧的な態度をとられやすい」、「男性には厳しく何を言ってもよいという風潮がある」などが挙がり、学生も性別に起因する生きづらさを感じているということがわかった。また、性別に関する固定観念の解消策を聴いたところ、「義務教育の間に授業としてジェンダーについて学ぶ機会を与えるといいのではないか」や、「社長など、上の立場の人が意識的に改革を行うと良い」という意見があり、次期計画の施策にも反映したいと考えている。

次に、こどもまんなか未来戦略について、アクションプランの目標を達成するためにどのような取り組みが必要かを、グループに分かれて議論し発表してもらった。学生からは、「自身の意見が聴いてもらえていると思う人の割合を高めるには、こども政策に関心の低いこども・若者の意見も聴けるように、学校や企業といった組織単位で行うのが良いと思う」や、「結婚・妊娠・子育てに温かい社会の実現に向かっていくと思う人の割合を高めるには、子育て施策の情報発信がなければ、利用者数や満足度は向上しない。妊婦への情報でも、幅広い世代に周知することで、周りから当事者へ伝わる仕組みが良いのではないか」という意見があった。

その他、こども・若者の意見聴取について、「実際にどのように政策に活かし、どのような成果が得られたのかを広く知らせて欲しい」という意見もあり、聴いた意見をどのように反映したのかをフィードバックしていくことが、こどもまんなか社会の実現に重要であるため、各部局においてもこれを踏まえ取り組んでいただきたい。

川上知事公室長：

広報広聴課では、「奈良県の広報について」というテーマで、大和郡山市立郡山西小学校において意見聴取を行った。当日は、広報のねらいやツール、奈々鹿について説明をした上で、「奈々鹿についてどのようなYouTubeを観てみたいのか」ということを、班ごとに話し合ってもらった。

出た意見では、「高市総理とのコラボ動画を見たい」や、「奈良に関することをランキング形式で発表してはどうか」などがあつた。後者については、「奈々鹿を感じる奈良の冬の風物詩ランキング」として、2月末までにSNSに投稿できるよう動画の作成を進めている。

また、こどもたち自身の思い出を発表してもらい、これをヒントに奈々鹿の親しみ向上に活かしたいとも考えている。

担当者からは、「日頃の業務では、小学生をはじめとしたこどもたちの意見を聴取する機会が少なく、とても有意義な取組であつた」や、「いただいた意見を反映することで事業の改善に繋がり、こどもたちも県政に対して親しみや興味を持つきっかけになるのではないかと聞いている。

今回、郡山西小学校と広報広聴課の間で繋がりができたので、継続して交流や意見聴取ができればと考えている。

森本産業部長：

本県の若者の県外就業率は非常に高く、文部科学省の調査によると、令和7年3月の県内高校卒業生の県外就業率は38.3%と、全国平均の19.1%を上回っている。それを何とかできないかということで意見聴取を行った。

意見聴取では、県立奈良北高校の生徒会15名を対象に、「県内の若者に県内就職をしてもらうためには、県や企業はどのようなことに取り組めばいいか」という点について、3グループに分かれて議論し発表してもらった。

県に対する意見では、「大阪の大学に進学すると、大阪の企業情報に接する機会が多くなり、奈良で就職しようとなりにくい」や、「まだやりたいことがはっきり決まっていない今の時期に、県内の企業や仕事に触れる機会がほしい。例えば、体育館に企業がブースを出して企業紹介をすれば、県内企業への印象も変わるのではないかと」という意見があつた。

企業に対する意見では、「やりたいことができ、自己実現ができる環境で働きたい」や、「福利厚生の実や職場環境、特にトイレのきれいさが大切」、「バズるようなSNS発信が重要」という意見があつた。

奈良北高校は大学に進学する生徒が多いため、就職についての意見が聴けるか不安もあつたが、担当者からは、「熱心に議論してもらい、高校生の就職に対するリアルな意見を聴くことができた有益な機会であつた」と聞いている。

今回の意見を踏まえ、若者の県内就職を促進するため、教育委員会とも連携しながら検討していきたいと考えている。

<意見交換>

西村副知事：

先日、こども・女性課主催の企業の経営トップ層を対象としたセミナーで、内閣官房全世代型社会保障構築本部事務局総括事務局長の山崎史郎氏に登壇いただいた。そこでは、トップの意識改革がまず大事であることや、ジェンダーギャップもさることながら、経営トップ層がシニアになることで生じる若手とのジェネレーションギャップへの意識改革、これまでの「自分がやることについて来る」という経営者マインドの時代ではないという話があつた。

行政についても、どうしても固定観念で進めようとするところがあるが、ぜひ政策の対象であるこども・若者の意見を聴くことで、より制度が洗練されていけば良いと思う。

<知事総括コメント>

予算査定はこれからではあるが、新しい事業が多く提案されている。引き続き、各部局長の協力をお願いしたい。

第9回こども・子育て推進本部会議出席者

職名
山下知事 [本部長]
福谷副知事 [副本部長]
清水副知事 [副本部長]
西村副知事 [副本部長]
川島総務部長
川上知事公室長
吉井南部東部振興監
小島防災統括室次長
毛利地域創造部長
畑澤こども・女性局長
中野こども・女性局次長
森本福祉保険部次長
通山医療政策局長
三宅環境森林部長
森本産業部長
吉岡観光局次長
中野食農部長
大澤県土マネジメント部次長
竹林まちづくり推進局長
松山会計局長
安田教育次長
泉警務部長